

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 06-291912

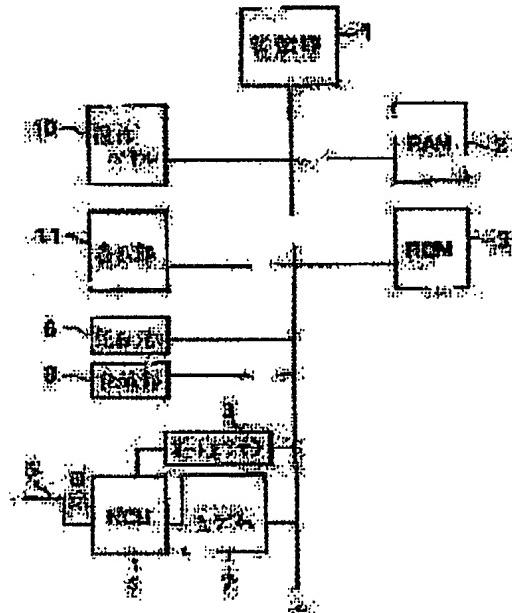
(43) Date of publication of application : 18.10.1994

(51) Int.Cl. H04N 1/00

(21) Application number : 04-030892 (71) Applicant : MURATA MACH LTD

(22) Date of filing : 18.02.1992 (72) Inventor : KUWABARA TETSUYA

(54) FACSIMILE EQUIPMENT



(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a facsimile equipment capable of preventing an unrequired content from being printed out onto recording paper due to a direct mail utilizing facsimile communication, avoiding a 2nd dialing due to interruption of a procedure to such an opposite party and providing information relating to controlling the avoidance of 2nd dialing to the user when the control avoiding the 2nd dialing is executed.

CONSTITUTION: The facsimile equipment is provided with a control section 1 comparing identification information (TSI) of a received dial station with identification information registered in advance in a RAM 2 as information of an opposite station whose communication is allowed and executing virtual reception processing not executing print processing of picture data even executing a procedure when the result of comparison indicates dissidence and controls generation of a journal report relating to the virtual reception.

registered in advance in a RAM 2 as information of an opposite station whose communication is allowed and executing virtual reception processing not executing print processing of picture data even executing a procedure when the result of comparison indicates dissidence and controls generation of a journal report relating to the virtual reception.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-291912

(43)公開日 平成6年(1994)10月18日

(51)Int.Cl.

H 04 N 1/00

識別記号 序内整理番号

106 B 7282-5C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 O.L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平4-30892

(22)出願日 平成4年(1992)2月18日

(71)出願人 000008297

村田機械株式会社

京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

(72)発明者 桑原 哲也

京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機

械株式会社本社工場内

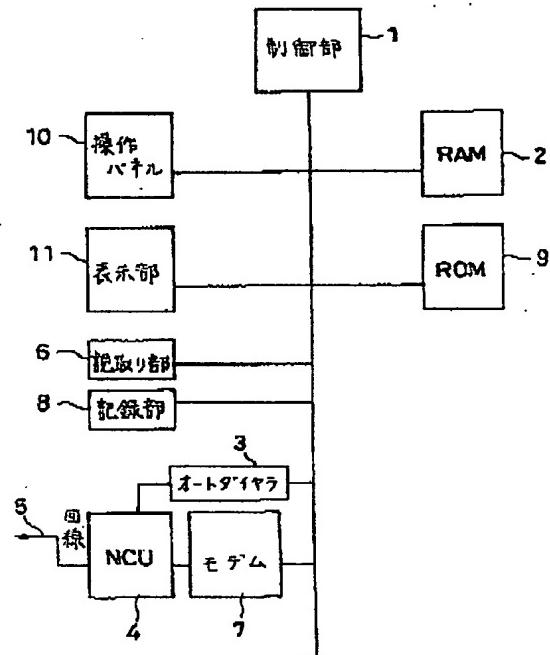
(74)代理人 弁理士 中島 司朗

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57)【要約】

【目的】 ファクシミリ通信を利用したダイレクトメールなどによって必要のない内容のものが記録紙に印字されるのを防止すると共に、そのような相手に対して手順を中断することによる再度の発呼を回避し、さらに、この再度の発呼を回避する制御を行ったときに、これに関する情報をユーザーに提供できるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【構成】 受信した発呼局の識別情報(T S I)と、通信を許可する相手局のものとしてRAM 2に予め登録されている識別情報とを比較し、この比較結果で一致しないと判断されたときには、手順は実行しつつも画データの印字処理は行わない偽装的な受信処理を行い、この偽装受信に関するジャーナルレポートを作成するよう制御する制御部1を備えた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 受信した発呼局の識別情報と、通信を許可する相手局のものとして予め登録されている識別情報とを比較する手段と、この比較結果で一致しないと判断されたときには、手順は実行しつつも画データの印字処理は行わない偽装的な受信処理を行う手段と、この偽装受信に関するジャーナルレポートを作成する手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 ファクシミリ通信を利用したダイレクトメールなどにより、必要のない通信でファクシミリ装置が使われ、他の発呼局からの至急の通信を受けることの妨げになったり、また、必要なない内容のものが記録紙に印字されことにより、記録紙の無駄な消費が行われるなどの問題が生じていた。

【0003】 このため、発呼局より送られてくるTSI(発呼局識別)を検知し、この発呼局の識別情報と、通信を許可する相手局のものとして予め登録されている識別情報とを順次比較し、一致するものがあるときには、以後の手順およびデータ通信を続行する一方、一致するものがないときには、手順を中断するようにしたファクシミリ装置が考えられる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、上述のように、通信途中に手順を中断すると、発呼側は通信手順が異常終了したと判断するおそれがある。このような場合、発呼側のファクシミリ装置が再度発呼してくる可能性があり、被呼側では無駄な着信を何度も受信することになりかねない。

【0005】 本発明は、上記の事情に鑑み、発呼側のファクシミリ装置が再度発呼してくる事態を回避できるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明に係るファクシミリ装置は、上記の課題を解決するために、受信した発呼局の識別情報と、通信を許可する相手局のものとして予め登録されている識別情報とを比較する手段と、この比較結果で一致しないと判断されたときには、手順は実行しつつも画データの印字処理は行わない偽装的な受信処理を行う手段と、この偽装受信に関するジャーナルレポートを作成する手段とを備えたことを特徴としている。

【0007】

【作用】 上記の構成によれば、通信を許可するものとして予め登録されていない相手に対しては、偽装受信として、例えば、その相手が送ってくる画データに対してはこれをメモリ受信し印字を行うことなくメモリ消去した

り、或いは、単に手順のみ実行して受信画データのメモリ格納も一切行わないなどの処理を行うので、不要な内容で記録紙が消費されるのが回避される。また、通信手順は中断されずに最後まで実行されるので、発呼側では正常に送信を終了したと判断し、再度の発呼も回避されることになる。そして、偽装受信に関するジャーナルレポートを作成するようにしたので、どのような相手からいつごろ不要な通信を受けたかなどを知ることができ

【0008】

【実施例】 本発明の一実施例を、図1ないし図3に基づいて説明すれば、以下の通りである。図3はファクシミリ装置の概略的な回路構成を示すブロック図であり、該ファクシミリ装置は、ファクシミリ全体の制御を行う他、後述するように、受信した発呼局識別情報に応じて通常受信と偽装受信との切替え制御などが行える制御部1と、送信データや受信データ或いは電話番号などを保持する他、通信を許可する相手局の識別情報が格納されるRAM2と、ダイヤル発信を行うためのオートダイヤラ3と、回線を制御するNCU4と、原稿台上にセットされた原稿の内容を光学的に読み取る読み取り部6と、変復調処理を行うモデム7と、サーマルヘッドによりドット単位の熱を記録紙に印加して画データの記録を行う他、偽装受信に関するジャーナルレポートの記録を行う記録部8と、前記の制御部1の動作に必要なプログラムを格納してあるROM9と、テンキー、ワンタッチキー、機能キーなどを備える操作パネル10と、LCDなどからなる表示部11とを備えて構成される。

【0009】 通信を許可する相手局の識別情報の登録は、例えば、機能キーおよび数桁分のテンキー操作を行って識別情報登録モードを呼び出し、識別情報として、加入者番号、メーカーコード、所定のID番号などをテンキー操作で入力することにより行えるようになっている。また、このように別途登録せずとも、短縮ダイヤル或いはワンタッチダイヤル登録している相手を、通信を許可する相手としてその電話番号を識別情報として用いるようにしてもよい。

【0010】 また、偽装受信機能を有効とするか無効とするかの切替えは所定のキー操作により行える他、ユーザにより指定された時間帯において偽装受信機能を有効とするか無効とするかの切替えも可能になっている。この時間帯の登録も、前述の識別情報の登録と同様、機能キーおよび数桁分のテンキー操作を行って識別情報登録モードを呼び出し、テンキー操作で開始時間および終了時間を入力することにより行えるようになっている。

【0011】 図1は、前記制御部1が行う受信時処理および偽装受信に関するジャーナルレポート作成並びにその印字処理を示すフローチャートである。まず、着信の有無を判断し(S1)、着信があれば、NSF、CS、DIS、DCSを送出し(S2)、NSS、TSI、DCS

を受信する (S 3)。そして、上記 T S I を記憶し (S 4)、通信を許可する相手局のものとして予め登録されている識別情報のなかに上記 T S I の発呼局識別情報と一致するものがあるか否かを判断する (S 6)。一致するものがあれば、通常受信処理 (S 7) に進む一方、一致するものがなければ、偽装受信が有効とされているか否かを判断する (S 8)。有効とされていなければ、ステップ 7 に進む一方、偽装受信が有効に設定されてあれば、時間帯データを読み出し (S 9)、現在時刻と比較して有効時間内か否かを判断する (S 10)。有効時間内でなければステップ 7 に進む一方、有効時間内または時間帯設定がないときは、偽装受信モードを設定する

(S 11)。即ち、トレーニングにおいて発呼局との間で転送レートを決めるときに最高の転送レートを選択すべく、たとえ、その転送レートでエラーが生じ得るものとされても、その最高の転送レートで通信可能である旨を発呼局に伝えると共に、以後の画データ受信に際して、たとえエラーを検出しても肯定的な応答をするように設定した上で、画データメモリ受信処理に進む (S 12)。次に、画データ終了か否かを判断し (S 13)、終了したなら、この偽装受信に関するジャーナルレポートで記述する内容、例えば、当該発呼局の T S I や通信時刻などをメモリに格納し (S 14)、前記メモリ受信した画データを消去し (S 15)、さらに、前記ステップ 4 で記憶した T S I を消去し (S 16)、リターンする。

【0012】一方、ステップ 1 の判断で着信なしとされれば、レポート作成要求ありか否かを判断し (S 17)、作成要求があれば、前記ステップ 1 4 で記憶した内容である T S I 、通信時刻、通信時間、枚数、通信モード、偽装受信した旨等を記述した偽装受信に関するジャーナルレポートを印字する (S 18)。ジャーナルレポートは、他の受信におけるレポートと併記するようにしてもよく、例えば、図 2 に示すような形式で印字出力される。

【0013】上記の構成によれば、不要な内容の画データに対しては、これをメモリ受信し、例えば、通信終了後にメモリ消去して印字は行わないため、不要な内容で記録紙が消費されるのが回避される。そして、通信手順は中断されずに最後まで実行されるので、発呼側では正常に送信を終了したと判断し、再度の発呼も回避されることになる。

【0014】また、偽装受信に関するジャーナルレポートを作成するようにしたので、どのような相手からいつごろ不要な通信を受けたかなどを知ることができる。なお、偽装受信に関するジャーナルレポートの作成は、こ

の偽装受信が行われた都度、或いは、毎日の決まった時間、或いは、操作者によるレポート作成指令に応じて行うなど、いずれの方法によってもよいし、また、印字によるレポートの他、表示部 1 1 による表示レポートとしてもよいものである。

【0015】さらに、偽装受信を時間帯で有効・無効化できるようにしたので、ダイレクトメッセージの多い時間帯、例えば、夜間においてのみ偽装受信を有効化設定し、就業時間中などは偽装受信を無効化するなどの選択が可能になる。なお、メモリに格納された画データは印字されることなく廃棄されるものであり、エラーを含んでいても何ら不都合はないから、本実施例では、たとえエラーがあったとしても肯定的な応答を行い、また、伝送レートとして最高速のものを用いて通信するようにして、通信時間の短縮化を図っている。

【0016】また、本実施例では、G 3 ファクシミリについて説明したが、G 4 ファクシミリについても、セットアップメッセージに含まれる発呼局識別情報に基づいて同様の偽装受信制御が行えるものである。また、本実施例では、偽装受信として、メモリ受信して印字せずにメモリ消去する処理を行うようにしたが、単に手順のみ実行して受信画データのメモリ格納も一切行わないなどの処理を行うようにしてもよいものである。

【0017】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、不要な受信で記録紙が消費されるのを回避できると共に、通信手順は中断されずに最後まで実行されるので、発呼側では正常に送信を終了したと判断し、再度の発呼も回避され、さらに、偽装受信に関するジャーナルレポートを作成するようにしたので、どのような相手からいつごろ不要な通信を受けたかなどを知ることができるという効果も併せて奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】受信時処理および偽装受信に関するジャーナルレポート作成並びにその印字処理を示すフローチャートである。

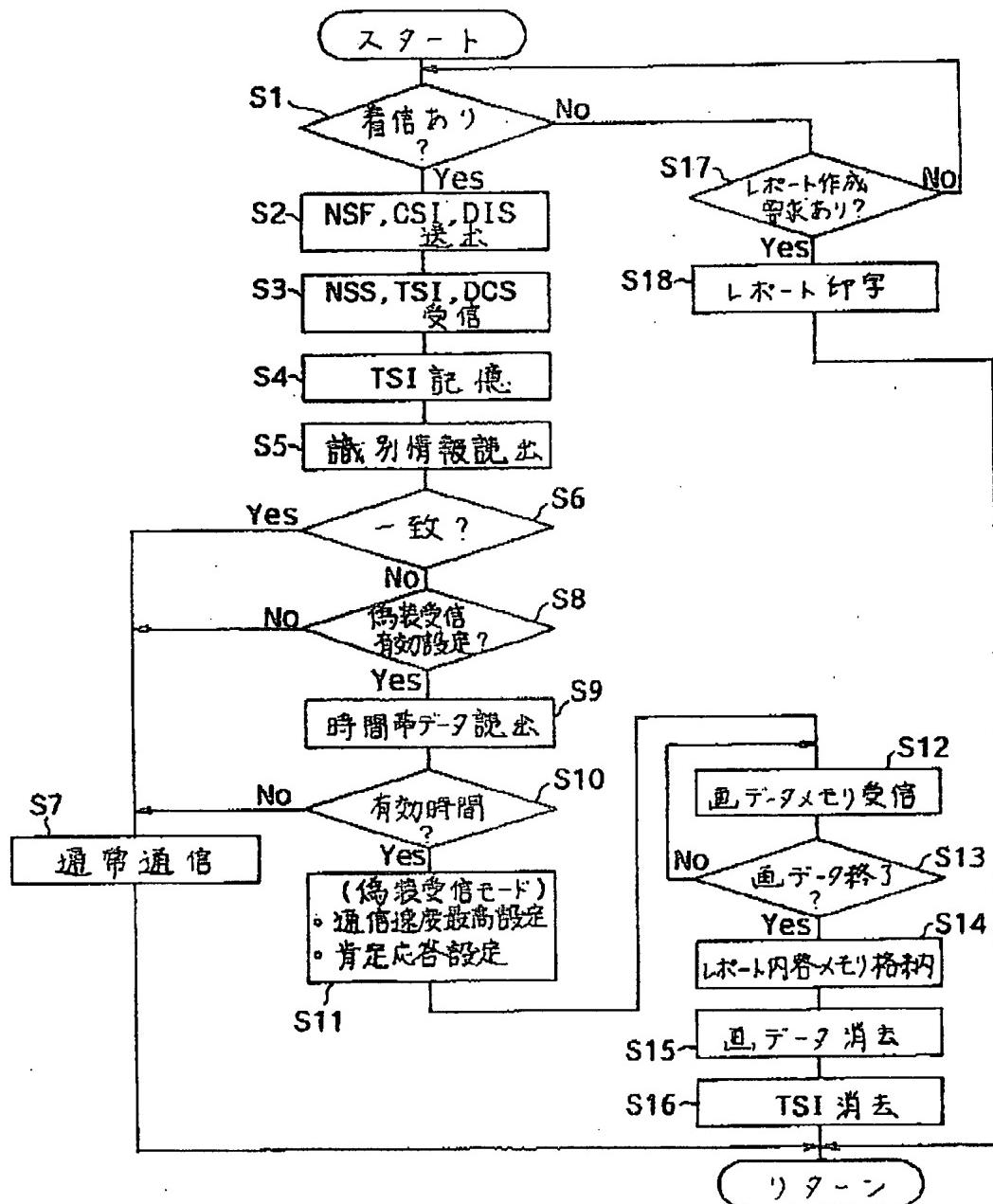
【図 2】偽装受信に関するジャーナルレポートの一例を示す説明図である。

【図 3】本発明の一実施例としてのファクシミリ装置の概略構成図である。

【符号の説明】

- | | |
|----|-------|
| 1 | 制御部 |
| 2 | RAM |
| 8 | 記録部 |
| 10 | 操作パネル |

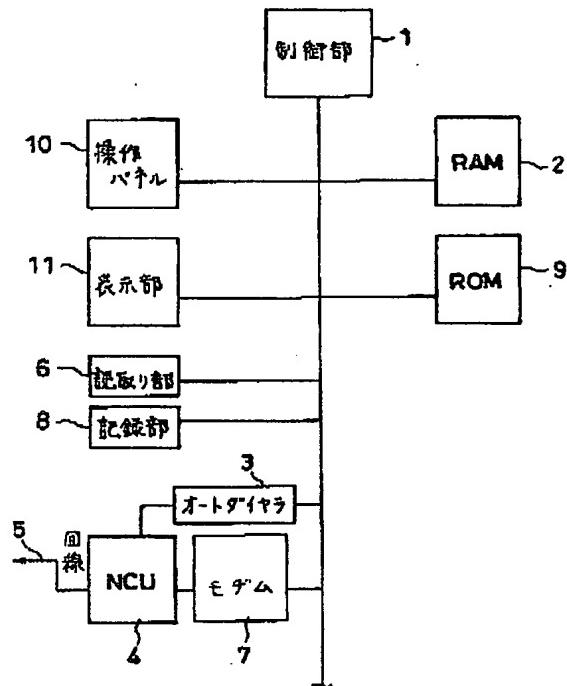
【図1】



【図2】

'92. 2. 1 受信ジャーナル P1					
相手先	時刻	時間	枚数	モード	備考
03-1234-5600	10:21	1'20"	6	ファイン ノーマル	親及受信
06-135-2400	11:45	25"	2	ノーマル	偽装受信
075-733-7800	13:03	3'40"	10	ノーマル	

【図3】



【手続補正書】

【提出日】平成5年5月20日

【手続補正1】

【補正対象番類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受信した発呼局の識別情報と、通信を許可する相手局のものとして予め登録されている識別情報とを比較する手段と、この比較結果で一致しないと判断されたときには、手順は実行しつつも画データの印字処理は行わない偽装的な受信処理を行う手段と、この偽装受信に関するジャーナルレポートを作成する手段とを備

えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 上記偽装的な受信処理の際、伝送速度を最高速に設定可能とされた請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項3】 上記偽装的な受信処理の際にエラーが含まれていても肯定的な回答をし得るよう設定可能とされた請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項4】 上記偽装的受信機能の有効・無効切替えが可能とされた請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項5】 上記偽装的受信機能の有効・無効切替えが時間帯によって設定可能とされた請求項1又は4記載のファクシミリ装置。